

第10次芦屋市交通安全計画重点施策整理表

【資料1】

No	概要 実施内容	所管及び関係機関	特徴 重点施策との関係 7つの柱	柱ごとの施策	施策に応じた対策	実施型	想定する交通安全に寄与する道筋	施策の実施結果の検証方法 交通事故での検証可否	検証用データ	内 容	検証結果 施策評価	見出された課題	
1	「ホッと安心訪問」活動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(1)交通弱者対策の充実	①地域における見守りを通じた生活に密着した交通安全活動の推進	・高齢者の交通安全指導 ・独居等高齢者宅を訪問し、出前型交通安全教室を実施する。	ソフト	高齢者宅に赴いて交通規制を再確認してもらう。 →交通規制に従った通行が促され、交通規制無視による事故抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	教室の実施内容記録	教室の内容を定性的に評価する。	良	コロナ禍の場合「密」を避ける必要がある。 訪問方法及び教室の内容の対応が課題。	
2	JR芦屋駅周辺での違法・迷惑駐車追放運動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(3)道路交通環境の整備	⑥違法駐車対策の推進	・JR芦屋駅周辺の違法駐車啓発	ソフト	違法・迷惑駐車等の防止を呼びかけ、道路交通が円滑に進むよう促す。 →路上の迷惑駐車or違法駐車削減に繋がり、道路空間の通行安全性を向上するため、JR芦屋駅周辺の交通事故抑止につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	可	緊急事態宣言等による外出機会の減少が今後も考えられる。啓発の効果との切り分け方法の考慮が必要。	
3	違法・迷惑駐車等の追放運動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	⑦「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	道路交通の障害を取り除くことで、道路上の自転車の通行安全性や歩道上の歩行者の通行安全性を向上させ、特に、対策実施路線での事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	事故件数自体はやや横ばいであり、引き続き追跡が必要。	
			(2)自転車対策の推進	⑥「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	道路交通の障害を取り除くことで、道路上の自転車の通行安全性や歩道上の歩行者の通行安全性を向上させ、特に、対策実施路線での事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	事故件数自体はやや横ばいであり、引き続き追跡が必要。	
4	シートベルト・チャイルドシート着用運動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	⑦「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	事故発生時や回避時の損傷程度の軽減を図る。	交通事故で検証困難な施策	兵庫県発表の着用率推移	県下でのシートベルト・チャイルドシート着用率の推移を追跡する。	良	「自転車」の対策扱いから外してはどうか。 (いずれも「自動車」の装備であったため) →一般道における後部座席のシートベルト着用率が全国的に4割前後。また、チャイルドシートの使用率は6〜7割。上昇傾向にあるものの、引き続き国・県との連携が必要。	
			(2)自転車対策の推進	⑥「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	事故発生時や回避時の損傷程度の軽減を図る。	交通事故で検証困難な施策	兵庫県発表の着用率推移	県下でのシートベルト・チャイルドシート着用率の推移を追跡する。	良	「自転車」の対策扱いから外してはどうか。 (いずれも「自動車」の装備であったため) →一般道における後部座席のシートベルト着用率が全国的に4割前後。また、チャイルドシートの使用率は6〜7割。上昇傾向にあるものの、引き続き国・県との連携が必要。	
			(4)交通安全思想の普及徹底	④後部座席などにおけるシートベルト着用の推進	・ベルト等着用強化の日(毎月15日)の啓発	ソフト	シートベルト・チャイルドシートの適切な使用率を促し、事故発生時or発生回避時の二次被害を抑える。	交通事故で検証困難な施策	兵庫県発表の着用率推移	県下でのシートベルト・チャイルドシート着用率の推移を追跡する。	良	→一般道における後部座席のシートベルト着用率が全国的に4割前後。また、チャイルドシートの使用率は6〜7割。上昇傾向にあるものの、引き続き国・県との連携が必要。	
5	飲酒運転根絶運動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	⑦「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	飲酒運転は悪質な犯罪行為であると周知することで飲酒運転の自戒を促し、飲酒運転に関わる事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	交通年鑑	飲酒運転の事故件数や全事故に対する割合を交通年鑑にて追跡する。	良	県下の発生状況を追えるもの、本市の状況を追跡しづらい。	
			(2)自転車対策の推進	⑥「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	飲酒運転は悪質な犯罪行為であると周知することで飲酒運転の自戒を促し、飲酒運転に関わる事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	交通年鑑	飲酒運転の事故件数や全事故に対する割合を交通年鑑にて追跡する。	良	県下の発生状況を追えるもの、本市の状況を追跡しづらい。	
6	夕暮れ時の早めのライト点灯運動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	⑦「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	早めのライト点灯を促し、車両の運転手や歩行者等がお互いの接近に気付く可能性を上げる。 →接触を回避できる確率を上げ、接触事故等の回避につなげる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ	薄暮時間帯(17〜19時)の車両関連事故件数を追跡する	良	地形的特性上、本市単独では効果が薄い。県の施策と連携しつつ進める必要あり。	
			(2)自転車対策の推進	⑥「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	早めのライト点灯を促し、車両の運転手や歩行者等がお互いの接近に気付く可能性を上げる。 →接触を回避できる確率を上げ、接触事故等の回避につなげる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ	薄暮時間帯(17〜19時)の車両関連事故件数を追跡する	良	地形的特性上、本市単独では効果が薄い。県の施策と連携しつつ進める必要あり。	
			(2)自転車対策の推進	⑦夕暮れ時の早めのライト点灯・反射材の普及	・街頭啓発を通して、夕暮れ時の早めのライト点灯を呼びかけ、反射材の配布	ソフト	早めのライト点灯を促し、車両の運転手や歩行者等がお互いの接近に気付く可能性を上げる。 →接触を回避できる確率を上げ、接触事故等の回避につなげる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ	薄暮時間帯(17〜19時)の車両関連事故件数を追跡する	良	地形的特性上、本市単独では効果が薄い。県の施策と連携しつつ進める必要あり。	
7	JR芦屋駅北側の交通規制見直し	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(3)道路交通環境の整備	⑥違法駐車対策の推進	・JR芦屋駅周辺の違法駐車啓発	ハード	対象地区での通行方法が安全性のより高い方法に変更されるため、JR芦屋駅周辺の交通事故抑止につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	変更前後の事故発生傾向をGISにて追跡する。	-	変更年次がR2につき、引き続き追跡する。	
8	愛護委員との交通安全に関する懇談会	芦屋警察署 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑧市民の参画・協働の推進	・交通安全教室及び啓発へのボランティア等の参加	ソフト	参加者等に交通安全への関心を持ってもらうと共に、近所の道路環境を話しもらう →交通規制に沿った交通を促すと共に危険な地点への対策を行い、事故抑止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	懇談会等の会議録	愛護委員自身の交通安全への関心や、活動時に感じた道路空間の通行安全性を確認。 →コロナ禍のため、懇談会自体を開けない可能性がある。代替策をどうすべきか。	可	住民各位の関心や意見が大事であるため、あえて愛護委員との懇談会として項目を分ける必要はないのではないか。 →コロナ禍のため、懇談会自体を開けない可能性がある。代替策をどうすべきか。	
9	交通事故抑止に資する指導取締りの推進	芦屋警察署	(5)道路交通秩序の維持	①悪質性・危険性、迷惑性の高い違反に重点を置いた取締りの強化	・交通事故抑止に資する指導取締りの推進	ソフト	交通規制の遵守を促し、交通安全につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	現状特になし。	
10	応急手当講習等受講 普通救命講習Ⅰ(市民、学校園) 普通救命講習Ⅱ(トライやるウィーク生徒、保育所、幼稚園職員) 上級救命講習(市民) 応急手当講習(市民、学校園)	消防本部	(6)救助・救急活動の充実	①自動体外式除細動器AEDの使用も含めた心臓蘇生などの応急手当の普及啓発活動の推進	・消防機関等が行う講習会等の普及啓発活動の推進 ・応急手当指導者の積極的な養成等 ・教職員対象の心臓蘇生法の実習及び各種講習会の開催等	ソフト	事故遭遇時の看護方法を確認してもらう。 →事故被害者への応急措置が可能となり、交通事故の被害軽減につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 併せて、死亡事故の傾向を追跡する。	事故発生時の応急手当の必要性は明らかであり、また交通事故の被害軽減につながるため、継続が妥当。 →コロナ禍のため、開催方法の模索が必要。	可	
11	応急手当普及員講習					ソフト	事故遭遇時の看護方法を確認してもらう。 →事故被害者への応急措置が可能となり、交通事故の被害軽減につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 併せて、死亡事故の傾向を追跡する。	事故発生時の応急手当の必要性は明らかであり、また交通事故の被害軽減につながるため、継続が妥当。 →コロナ禍のため、開催方法の模索が必要。	可	
12	救急医療機関との連携を図る					ソフト	速やかに被害者を治療できるよう体制を整え、事故発生時の重症化を抑える。	交通事故で検証困難な施策	救急隊の現場到着所要時間平均(兵庫県HP、消防防災年報)	救急隊の現場到着時間平均を追跡する。	良	現状特になし。	
13	救助体制の整備・拡充					ソフト	速やかに被害者を治療できるよう体制を整え、事故発生時の重症化を抑える。	交通事故で検証困難な施策	救急隊の現場到着所要時間平均(兵庫県HP、消防防災年報)	救急隊の現場到着時間平均を追跡する。	良	現状特になし。	
14	救助隊員及び救急隊員の教育訓練の充実					ソフト	速やかに被害者を治療できるよう体制を整え、事故発生時の重症化を抑える。	交通事故で検証困難な施策	救急隊の現場到着所要時間平均(兵庫県HP、消防防災年報)	救急隊の現場到着時間平均を追跡する。	良	現状特になし。	
15	消防防災ヘリコプターによる救助・救急業務の推進	ソフト	③県消防防災ヘリコプター活用による救助・救急業務の推進	・消防防災ヘリコプターによる救助・救急業務の推進	ソフト	速やかに被害者を治療できるよう体制を整え、事故発生時の重症化を抑える。	交通事故で検証困難な施策	救急隊の現場到着所要時間平均(兵庫県HP、消防防災年報)	救急隊の現場到着時間平均を追跡する。	良	現状特になし。		

第10次芦屋市交通安全計画重点施策整理表

【資料1】

No	概要 実施内容	所管及び関係機関	特徴 重点施策との関係 7つの柱	柱ごとの施策	施策に応じた対策	実施型	想定する交通安全に寄与する道筋	施策の実施結果の検証方法 交通事故での検証可否	検証用データ	内 容	検証結果 施策評価	見出された課題		
16	奥池町地内外にて転落防止柵の改修工事(延長248m)	道路・公園課	(3)道路交通環境の整備	①生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備	・事故の被害程度を軽減させるための防護柵の改良工事	ハード	転落防止柵の保守管理により、転落事故を防ぐ。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	特になし。 (実施地点での事故は見られず)		
17	親王塚町地内外にて転落防止柵の改修工事(延長405m)			③交通安全施設等の整備事業の推進							①生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備		③交通安全施設等の整備事業の推進	可
18	打出小槌町地内外にて転落防止柵の改修工事(延長123m)			①生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備							③交通安全施設等の整備事業の推進		良	
19	大東町地内外にて転落防止柵・横断防止柵の改修工事(延長108m)			①生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備							③交通安全施設等の整備事業の推進		良	
20	南宮町地内外にて転落防止柵の改修(延長82m)			①生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備							③交通安全施設等の整備事業の推進		良	
21	さくら参道、芦屋川地区の無電柱化詳細設計			④電線類の地中化の推進							⑦災害に備えた道路交通環境の整備		-	実施時期がR2であるため、今後の動向で判定。
22	さくら参道にて、無電柱化に伴う引込管路工事	④電線類の地中化の推進	⑦災害に備えた道路交通環境の整備	-	実施時期がR2であるため、今後の動向で判定。									
23	さくら参道にて無電柱化工事(延長265m)	④電線類の地中化の推進	⑦災害に備えた道路交通環境の整備	-	実施時期がR2であるため、今後の動向で判定。									
24	さくら参道にて無電柱化工事(延長320m)、道路改良工事(延長2350m)	④電線類の地中化の推進	⑦災害に備えた道路交通環境の整備	良	特になし。 (無電柱化実施地点での事故は見られず)									
25	さくら参道にて無電柱化工事跡の道路改良工事 市道314号線(精道中学校南地区)にて官民連携無電柱化支援事業 芦屋川地区にて、無電柱化詳細設計 無電柱化工事跡道路改良工事 面積3,425㎡ 官民連携無電柱化支援事業 延長205m 無電柱化詳細設計 延長1.3km	④電線類の地中化の推進	⑦災害に備えた道路交通環境の整備	良	特になし。 (無電柱化実施地点での事故は見られず)									
26	市内各中学校にて交通安全教室を開催	建設総務課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(2)自転車対策の推進	②自転車利用者への交通ルールの周知と安全教育の推進	・毎月行う自転車マナー啓発で交通ルールの周知を行う。 ・ルールを遵守しなかった場合の罰則やリスク等周知を行う。	ソフト	交通安全の規則を身に付けさせることで、事故発生に繋がる行為の自制を促し、交通事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	可	若年層の事故件数はH28～R2で横ばい状態である。なお、H28以降に教室参加した者はR2時点で13～20歳前後である。今後の若年層の事故件数の観測で大体の効果を把握する。		
27	芦屋特別支援学校にて交通安全教室を開催	学校教育課 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	④障がいの程度に応じた交通安全教育の実施	・芦屋特別支援学校にて交通安全教室	ソフト	交通安全の規則を再確認させる。 →交通規制に従った通行が促され、交通規制無視による事故抑止につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	事故件数自体は落ち着いている。 ※障害者の事故のみを抽出不能であったため、0～24歳の歩行者の事故件数の傾向より推定。		
28	管内の高校におけるスクエアドストレイト交通安全教室の実施	建設総務課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(2)自転車対策の推進	②自転車利用者への交通ルールの周知と安全教育の推進	・毎月行う自転車マナー啓発で交通ルールの周知を行う。 ・ルールを遵守しなかった場合の罰則やリスク等周知を行う。	ソフト	「交通事故は自分事」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、油断等による事故の発生抑止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているかを定性的に評価する。	可	参加者の共感を得られやすく、開催意義は大きい。 一方、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。		
29	交通安全教室	芦屋警察署 学校教育課 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	③地域の特徴に応じた子どもの交通安全教育の実施	・各小学校区における下校指導(学期毎) ・校外、園外に出る歩行訓練 ・交通安全教室	ソフト	交通安全の規則を身に付けさせることで、自発的な交通安全を促す。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	現状特になし。		
30	交通安全協会と連携して、地域ボランティアの交通安全教室等への参加	芦屋警察署 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑦交通の安全に関する民間団体などの主体的活動の推進	・交通安全教室及び啓発へのボランティア等の参加	ソフト	ボランティア参加者等に交通安全への関心を持ってもらうことで、自転車等の安全な通行行動へ変容を促し、事故件数の抑止を図る。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているかを定性的に評価する。	可	コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。		
31	交通安全教室	学校教育課 建設総務課 芦屋警察署	(4)交通安全思想の普及徹底	①参加・体験・実践型の交通安全教育、普及啓発活動の推進	・交通安全教室の開催 ・自転車免許教室の開催 ・校外、園外における歩行訓練 ・自転車の実技実施	ソフト	交通安全の規則を身に付けさせることで、事故発生に繋がる行為の自制を促し、交通事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	0～24歳の事故のうち、自転車および歩行者関連事故を追跡したところ、各小学校区とも事故発生傾向は横ばいであることを確認。 今期(第10次)に限らず、概ね第6次以降継続して行っている活動の効果が出ていると考える。		
		芦屋警察署 建設総務課		⑧市民の参画・協働の推進	・交通安全教室及び啓発へのボランティア等の参加	ソフト	交通安全の規則を身に付けさせることで、事故発生に繋がる行為の自制を促し、交通事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	0～24歳の事故のうち、自転車および歩行者関連事故を追跡したところ、各小学校区とも事故発生傾向は横ばいであることを確認。 今期(第10次)に限らず、概ね第6次以降継続して行っている活動の効果が出ていると考える。		
32	反射材の配布(交通安全教室、保育所、幼稚園、小中学校、特別支援学校、シルバー人材センター)	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑤反射材用品等の普及促進	・自転車マナー啓発及び子どもの交通安全教室における反射材の配布 ・高齢者に対する啓発時の反射材の配布	ソフト	交通規制を学習ないし再確認し、危険な事故を防ぐ。 また、反射材を身に着けることで運転手に気付かれる確率を上げ、事故を抑える。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているかを定性的に評価する。	可	現状特になし。 (H28～R2の5年で約8900個(人口の約9.4%相当)配布)		

第10次芦屋市交通安全計画重点施策整理表

【資料1】

No	概要 実施内容	所管及び関係機関	特徴 重点施策との関係 7つの柱	柱ごとの施策	施策に応じた対策	実施型	想定する交通安全に寄与する道筋	施策の実施結果の検証方法 交通事故での検証可否	検証用データ	内 容	検証結果 施策評価	見出された課題
33	各小学校区にて通学路合同点検。要望箇所について安全対策を講じる。(複数の学校区ごとに実施)	学校教育課 建設総務課 道路・公園課 芦屋警察署 子育て推進課	(1)交通弱者対策の充実	⑤通学通園路等における歩行空間の確保	・通学路交通安全プログラムに基づき、合同点検を行い改善、要望のあった箇所について関係機関と連携を図り安全対策を講じる。	ソフト	交通事故が起こりやすい地点を事前に見つけ出す。 →洗い出された問題点に対応することで、交通事故の防止や被害の軽減につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	各小学校区内での事故件数自体は横ばいで推移している一方、危険予測は感覚的なものに頼っている。現状では定量的な危険地点の予測をしづらい。
		道路・公園課	(3)道路交通環境の整備	②通学通園路などの歩行空間の整備の推進	・通学路交通安全プログラムに基づき、合同点検を行い改善、要望のあった箇所について関係機関と連携を図り安全対策を講じる。	ソフト	交通事故が起こりやすい地点を事前に見つけ出す。 →洗い出された問題点に対処することで、交通事故の防止や被害の軽減につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	各小学校区内での事故件数自体は横ばいで推移している一方、危険予測は感覚的なものに頼っている。現状では定量的な危険地点の予測をしづらい。
34	未就学児が集団で移動する経路に関する安全点検の実施	学校教育課 建設総務課 道路・公園課 芦屋警察署 子育て推進課	(1)交通弱者対策の充実	⑤通学通園路等における歩行空間の確保	・通学路交通安全プログラムに基づき、合同点検を行い改善、要望のあった箇所について関係機関と連携を図り安全対策を講じる。	ソフト	交通事故が起こりやすい地点を事前に見つけ出す。 →洗い出された問題点に対応することで、交通事故の防止や被害の軽減につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	事故件数自体は横ばいである。一方、危険予測は感覚的なものに頼っている。現状では定量的な危険地点の予測をしづらい。
35	愛護委員、PTA等と連携した登下校指導等	芦屋警察署 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑧市民の参画・協働の推進	・交通安全教室及び啓発へのボランティア等の参加	ソフト	交通安全の規則を再確認させる。 →交通規制に従った通行が促され、交通規制無視による事故抑止につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	現状特になし。
36	下校指導	学校教育課 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	③地域の特徴に応じた子どもの交通安全教育の実施	・各小学校区における下校指導(学期毎) ・校外、園外に出る歩行訓練 ・交通安全教室	ソフト	交通安全の規則を再確認させる。 →交通規制に従った通行が促され、交通規制無視による事故抑止につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	現状特になし。
37	登下校時の児童生徒の集合場所等の点検の実施	学校教育課 建設総務課 道路・公園課 芦屋警察署 子育て推進課	(1)交通弱者対策の充実	⑤通学通園路等における歩行空間の確保	・通学路交通安全プログラムに基づき、合同点検を行い改善、要望のあった箇所について関係機関と連携を図り安全対策を講じる。	ソフト	交通事故が起こりやすい地点を事前に見つけ出す。 →洗い出された問題点に対応することで、交通事故の防止や被害の軽減につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	可	事故件数自体は横ばいである。一方、危険予測は感覚的なものに頼っている。現状では定量的な危険地点の予測をしづらい。
38	芦屋さくらまつり、オータムフェスタ、校区合同防災訓練での自転車安全利用推進運動、園遊会、秋まつり等での啓発	建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	①地域における見守りを通じた生活に密着した交通安全活動の推進	・高齢者が集まりやすいイベント ・会議(地域のまつり、集会所等)で交通安全啓発を行う。	ソフト	交通安全の規則を再確認してもらう。 →交通規制に従った通行が促され、交通規制無視による事故抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	コロナ禍のため「密」を避ける必要がある。開催内容をどうすべきか。
39	街頭啓発	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑤反射材用品等の普及促進	・自転車マナー啓発及び子どもの交通安全教室における反射材の配布 ・高齢者に対する啓発時の反射材の配布	ソフト	「交通事故は自分事」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、油断等による事故の発生抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	啓発活動の効果測定は困難。
		建設総務課 生涯学習課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(4)交通安全思想の普及徹底	⑥飲酒運転根絶に向けた規範意識の確立	・四季の交通安全運動キャンペーンへのキッズ保安官による啓発 ・街頭啓発(飲酒運転根絶運動)の実施	ソフト	「交通事故は自分事」「自動車・自転車はルールにのっとり適切な道路空間の利用が重要」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、事故件数の抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	良	飲酒運転は県下で減少傾向にあり、寄与度は不明ながら、啓発活動に一定の効果があったと考えられる。
		建設総務課 生涯学習課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(4)交通安全思想の普及徹底	③自転車の安全利用の推進	①自転車ネットワーク計画策定に向けた関係機関との協議 ②自転車ネットワーク計画を策定 ③自転車ネットワーク計画に基づいた整備に関する関係機関との協議	ソフト	「交通事故は自分事」「自転車はルールにのっとり適切な道路空間の利用が重要」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、事故件数の抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	交通量等に照らして自転車ネットワーク路線の設定が目的に即するか否かを定性的に評価する。	可	道路幅や交通量、事故発生傾向等を踏まえると、自転車ネットワーク路線の設定地点は適切と考えられる。
40	管内の高校生と協働した自転車マナーアップ街頭キャンペーンの実施	建設総務課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(2)自転車対策の推進	②自転車利用者への交通ルールの周知と安全教育の推進	・毎月行う自転車マナー啓発で交通ルールの周知を行う。 ・ルールを遵守しなかった場合の罰則やリスク等周知を行う。	ソフト	「交通事故は自分事」「自転車はルールにのっとり適切な道路空間の利用が重要」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、事故件数の抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
41	啓発へのボランティア等の参加	芦屋警察署 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑧市民の参画・協働の推進	・交通安全教室及び啓発へのボランティア等の参加	ソフト	ボランティア参加者等に交通安全への関心を持ってもらうことで、自発的な交通安全を促す。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
42	四季(春、夏、秋、年末)の交通安全運動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	⑦「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	交通弱者が安心して通行できる状況を維持し、事故発生を抑制する。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ	四季の交通安全運動の個別具体策を踏まえ、検証を行う。	可	「四季(春、夏、秋、年末)の交通安全運動」を項目として取り上げる必要が無い。 (四季の交通安全運動の個別事項を項目として取り上げているため)
			(2)自転車対策の推進	⑥「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を周知し、危険な事故を防ぐ。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ		可	「四季(春、夏、秋、年末)の交通安全運動」を項目として取り上げる必要が無い。 (四季の交通安全運動の個別事項を項目として取り上げているため)
43	全国交通安全運動キャンペーンへのキッズ保安官の参加(春・秋)	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑥飲酒運転根絶に向けた規範意識の確立	・四季の交通安全運動キャンペーンへのキッズ保安官による啓発 ・街頭啓発(飲酒運転根絶運動)の実施	ソフト	飲酒運転は悪質な犯罪行為であると周知することで飲酒運転の自制を促し、飲酒運転に関わる事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	交通年鑑等	飲酒運転の事故件数や全事故に対する割合を交通年鑑等にて追跡する。	良	現状特になし。
44	高齢者運転免許自主返納サポート協議会への加盟を芦屋市商工会へ依頼	芦屋警察署 建設総務課 生涯学習課	(1)交通弱者対策の充実	②高齢者の事故発生状況に応じた交通安全教育・啓発の実施	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施 ・高齢者ドライビングスクールの開催	ソフト	高齢者の免許返納を促すことで、運転時の高齢者による事故を抑える。	交通事故で検証困難な施策	都道府県別申請取消件数(警察庁公表「運転免許統計」)	申請取消件数の推移を追跡する。	良	現状特になし。
45	高齢者交通安全教育隊(スタウス)による安全教育	芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(1)交通弱者対策の充実	①地域における見守りを通じた生活に密着した交通安全活動の推進	・高齢者の交通安全指導 ・独居等高齢者宅を訪問し、出前型交通安全教室する。	ソフト	「交通事故は自分事」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、油断等による事故の発生抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	参加者の共感を得られやすく、開催意義は大きい。 一方、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
		建設総務課 生涯学習課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(4)交通安全思想の普及徹底	②高齢者に対する交通安全教育の推進	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施	ソフト	「交通事故は自分事」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、油断等による事故の発生抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	参加者の共感を得られやすく、開催意義は大きい。 一方、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
46	市広報紙とケーブルテレビにて高齢者免許返納についての案内を掲載、放映	芦屋警察署 建設総務課 生涯学習課	(1)交通弱者対策の充実	②高齢者の事故発生状況に応じた交通安全教育・啓発の実施	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施 ・高齢者ドライビングスクールの開催	ソフト	自動車免許の返納を促し、自動車運転時の高齢者が引き起こす事故を抑える。	交通事故で検証困難な施策	都道府県別申請取消件数(警察庁公表「運転免許統計」)	申請取消件数の推移を追跡する。	良	現状特になし。
47	自転車シミュレーターを利用した啓発活動	建設総務課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(2)自転車対策の推進	②自転車利用者への交通ルールの周知と安全教育の推進	・毎月行う自転車マナー啓発で交通ルールの周知を行う。 ・ルールを遵守しなかった場合の罰則やリスク等周知を行う。	ソフト	「交通事故は自分事」「自転車はルールにのっとり適切な道路空間の利用が重要」との認識を持ってもらう。 →安全な通行行動へ変容を促すことで、事故件数の抑止につながる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	子どもがシミュレーターを体験し、親族が傍で見守る・アドバイスする例が見られるため、家族で交通ルールを考えるきっかけ作りにも有効と考えられる。 第1当事者となるケースを疑念的に再現できないか。また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
48	自転車ネットワーク計画に基づいた整備に関する関係機関との協議	道路・公園課	(3)道路交通環境の整備	⑤安全で快適な自転車利用環境の整備	自転車ネットワーク計画の策定及び具体化	ソフト	自転車ネットワーク計画に基づき自転車走行環境を整備することで、歩行者と自転車の交通安全性を保ち、事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	・	具体的な施策の実施後に改めて評価予定。
49	自転車ネットワーク計画を策定	道路・公園課	(3)道路交通環境の整備	⑤安全で快適な自転車利用環境の整備	自転車ネットワーク計画の策定及び具体化	ソフト	自転車ネットワーク計画に基づき自転車走行環境を整備することで、歩行者と自転車の交通安全性を保ち、事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	・	具体的な施策の実施後に改めて評価予定。

第10次芦屋市交通安全計画重点施策整理表

【資料1】

No	概要 実施内容	所管及び関係機関	特徴 重点施策との関係 7つの柱	柱ごとの施策	施策に応じた対策	実施型	想定する交通安全に寄与する道筋	施策の実施結果の検証方法 交通事故での検証可否	検証用データ	内 容	検証結果 施策評価	見出された課題
50	自転車ネットワーク計画策定に向けた関係機関との協議	道路・公園課	(3)道路交通環境の整備	⑤安全で快適な自転車利用環境の整備	自転車ネットワーク計画の策定及び具体化	ソフト	自転車ネットワーク計画に基づき自転車走行環境を整備することで、歩行者と自転車の交通安全性を保ち、事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施地域の事故発生傾向をGISにて追跡する。	-	具体的な施策の実施後に改めて評価予定。
51	自転車安全利用推進運動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(1)交通弱者対策の充実	⑦「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習ないし再確認してもらい、 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	-	-	ストップ・ザ・交通事故に関する取り組みを個別に掲載しているため、ここでの評価は割愛。
			(2)自転車対策の推進	⑥「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進	・兵庫県の実施要領等に基づき実施	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習ないし再確認してもらい、 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	-	-	ストップ・ザ・交通事故に関する取り組みを個別に掲載しているため、ここでの評価は割愛。
52	自転車教室	建設総務課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(2)自転車対策の推進	①子どもの発達段階に応じた自転車マナー啓発活動の推進	・小学4年生を対象に自転車教室(警察主催・その他小学生)	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習させる。 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな自転車ルールを体験しながら見直す良い機会。 一方、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
			(2)自転車対策の推進	①子どもの発達段階に応じた自転車マナー啓発活動の推進	・小学4年生を対象に自転車教室(市立小学校・4年生)	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習させる。 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな自転車ルールを体験しながら見直す良い機会。 第1当事者となるケースを疑似的に再現できないか。また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
			(2)自転車対策の推進	②自転車利用者への交通ルールの周知と安全教育の推進	・毎月行う自転車マナー啓発で交通ルールの周知を行う。 ・ルールを遵守しなかった場合の罰則やリスク等周知を行う。	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習させる。 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな自転車ルールを体験しながら見直す良い機会。 第1当事者となるケースを疑似的に再現できないか。また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
			(4)交通安全思想の普及徹底	③自転車の安全利用の推進	①自転車ネットワーク計画策定に向けた関係機関との協議 ②自転車ネットワーク計画を策定 ③自転車ネットワーク計画に基づいた整備に関する関係機関との協議	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習させる。 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな自転車ルールを体験しながら見直す良い機会。 第1当事者となるケースを疑似的に再現できないか。また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
53	自転車駐車場指定管理者の交通安全教室等への参加	芦屋警察署 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑦交通の安全に関する民間団体などの主体的活動の推進	・交通安全教室及び啓発へのボランティア等の参加	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習させる。 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	指定管理者の参加はスタッフ側への応援としての側面が強く、ここで挙げる必要はないのではないか。
54	自転車免許教室	建設総務課 学校教育課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(2)自転車対策の推進	④自転車運転免許証等を発行する自転車交通安全教室の推進	・小学校4年生以上を対象に実施。(低学年の参加も可)	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習ないし再確認してもらい、 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな自転車ルールを体験しながら見直す良い機会。 第1当事者となるケースを疑似的に再現できないか。また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
			(4)交通安全思想の普及徹底	①参加・体験・実践型の交通安全教育、普及啓発活動の推進	・交通安全教室の開催 ・自転車免許教室の開催 ・校外、園外における歩行訓練 ・自転車の実践実施	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習ないし再確認してもらい、 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな自転車ルールを体験しながら見直す良い機会。 第1当事者となるケースを疑似的に再現できないか。また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
			(4)交通安全思想の普及徹底	③自転車の安全利用の推進	①自転車ネットワーク計画策定に向けた関係機関との協議 ②自転車ネットワーク計画を策定 ③自転車ネットワーク計画に基づいた整備に関する関係機関との協議	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習ないし再確認してもらい、 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな自転車ルールを体験しながら見直す良い機会。 第1当事者となるケースを疑似的に再現できないか。また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
55	自転車利用者の交通違反に対する指導取締り	芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(5)道路交通秩序の維持	②自転車利用者に対する指導取締りの推進	・自転車利用者の交通違反に対する指導取締り ・自転車利用者マナーアップ指導啓発活動	ソフト	交通規制の遵守を促すことで、危険行為の減少・道路の交通安全性向上につなげ、交通事故防止を図る。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	可	現状特になし。
56	自転車利用者マナーアップ指導啓発活動	芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(5)道路交通秩序の維持	②自転車利用者に対する指導取締りの推進	・自転車利用者の交通違反に対する指導取締り ・自転車利用者マナーアップ指導啓発活動	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を周知し、危険な事故を防ぐ。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	可	現状特になし。
57	職員向け自転車講習会	建設総務課 人事課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(4)交通安全思想の普及徹底	③自転車の安全利用の推進	①自転車ネットワーク計画策定に向けた関係機関との協議 ②自転車ネットワーク計画を策定 ③自転車ネットワーク計画に基づいた整備に関する関係機関との協議	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を復習することで、公務中の事故を防ぐ。	交通事故で検証できる施策	職員の公務中事故の事故件数	公務中の交通事故件数を追跡する。	可	元来市職員の事故件数が少ない。取組としては良好だが、項目として挙げる必要はないのではないか。
58	イベント等で自転車保険加入の啓発	芦屋交通安全協会 建設総務課 芦屋警察署	(2)自転車対策の推進	③自転車賠償責任保険の加入促進	・駐輪場で自転車保険の案内等を配布 ・イベント等で自転車保険加入の啓発	ソフト	事故発生時の賠償を容易とし、発生後の社会復帰を資金面から援助する。	交通事故で検証困難な施策	自転車保険加入率	兵庫県下の自転車保険加入率を追跡する。	-	現状特になし。
59	加入状況アンケート(交通安全協会)	芦屋交通安全協会 建設総務課 芦屋警察署	(2)自転車対策の推進	③自転車賠償責任保険の加入促進	・駐輪場で自転車保険の案内等を配布 ・イベント等で自転車保険加入の啓発	ソフト	事故発生時の賠償を容易とし、発生後の社会復帰を資金面から援助する。	交通事故で検証困難な施策	自転車保険加入率	兵庫県下の自転車保険加入率を追跡する。	良	現状特になし。
			(7)損害賠償の適正化をはじめとした被害者支援の推進	①自転車賠償責任保険の加入促進	・駐輪場で自転車保険の案内等の配布 ・イベント等で自転車保険加入の啓発	ソフト	事故発生時の賠償を容易とし、発生後の社会復帰を資金面から援助する。	交通事故で検証困難な施策	自転車保険加入率	兵庫県下の自転車保険加入率を追跡する。	良	現状特になし。
60	市役所庁舎内、市営駐輪場内に自転車保険の案内パンフレット設置、イベント等で自転車保険加入の啓発	芦屋交通安全協会 建設総務課 芦屋警察署	(2)自転車対策の推進	③自転車賠償責任保険の加入促進	・駐輪場で自転車保険の案内等を配布 ・イベント等で自転車保険加入の啓発	ソフト	事故発生時の賠償を容易とし、発生後の社会復帰を資金面から援助する。	交通事故で検証困難な施策	自転車保険加入率	兵庫県下の自転車保険加入率を追跡する。	良	現状特になし。
			(7)損害賠償の適正化をはじめとした被害者支援の推進	①自転車賠償責任保険の加入促進	・駐輪場で自転車保険の案内等の配布 ・イベント等で自転車保険加入の啓発	ソフト	事故発生時の賠償を容易とし、発生後の社会復帰を資金面から援助する。	交通事故で検証困難な施策	自転車保険加入率	兵庫県下の自転車保険加入率を追跡する。	良	現状特になし。
61	出前講座	芦屋警察署 芦屋交通安全協会 建設総務課	(4)交通安全思想の普及徹底	⑤反射材用品等の普及促進	・自転車マナー啓発及び子どもの交通安全教室における反射材の配布 ・高齢者に対する啓発時の反射材の配布	ソフト	交通規制や「歩行者の事故要因」を学習ないし復習することで、乗車中の事故を防ぐ。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな交通ルールを見直す良い機会。 また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等があることが課題。
			(4)交通安全思想の普及徹底	③自転車の安全利用の推進	①自転車ネットワーク計画策定に向けた関係機関との協議 ②自転車ネットワーク計画を策定 ③自転車ネットワーク計画に基づいた整備に関する関係機関との協議	ソフト	自転車の交通規制や「車両としての危険性」を学習ないし再確認してもらい、 →危険行為の自制を促し、乗車中の事故防止につなげる。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	見落としがちな交通ルールを見直す良い機会。 また、コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
62	生活安全推進連絡会高齢者分科会にて交通安全指導の実施	芦屋警察署 建設総務課 生涯学習課	(1)交通弱者対策の充実	②高齢者の事故発生状況に応じた交通安全教育・啓発の実施	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施 ・高齢者ドライビングスクールの開催	ソフト	自動車の交通規制や「車両としての危険性」を再確認し、危険な事故を防ぐ。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	良	取組は良好であり、計画の趣旨に合っている。

第10次芦屋市交通安全計画重点施策整理表

【資料1】

No	概要 実施内容	所管及び関係機関	特徴 重点施策との関係 7つの柱	柱ごとの施策	施策に応じた対策	実施型	想定する交通安全に寄与する道筋	施策の実施結果の検証方法 交通事故での検証可否	検証用データ	内 容	検証結果 施策評価	見出された課題
63	シルバードライバーズ・スクール	芦屋警察署 建設総務課 生涯学習課	(1)交通弱者対策の充実	②高齢者の事故発生状況に応じた交通安全教育・啓発の実施	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施 ・高齢者ドライビングスクールの開催	ソフト	交通安全の規則を再確認することで、自発的な交通安全を促す。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	オープンデータカタログのデータより高齢者の自動車運転事故件数推移を追跡する。	不	増加傾向が見られる。
		建設総務課 生涯学習課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(4)交通安全思想の普及徹底	②高齢者に対する交通安全教育の推進	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施	ソフト	交通安全の規則を再確認することで、自発的な交通安全を促す。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	オープンデータカタログのデータより高齢者の自動車運転事故件数推移を追跡する。	不	増加傾向が見られる。
64	シルバー人材センターでの講話	芦屋警察署 建設総務課 生涯学習課	(1)交通弱者対策の充実	②高齢者の事故発生状況に応じた交通安全教育・啓発の実施	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施 ・高齢者ドライビングスクールの開催	ソフト	交通安全の規則を再確認することで、自発的な交通安全を促す。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	オープンデータカタログのデータより高齢者の自動車運転事故件数推移を追跡する。	可	現状特になし。
65	設置看板の維持管理	道路・公園課	(1)交通弱者対策の充実	⑥「あんしん歩行エリア」の形成等による交通安全対策の推進	・関係機関(国道管理者、県道管理者、警察、鉄道管理者)と調整を図り注意喚起看板を設置	ハード	設置看板の維持管理により、あんしん歩行エリアでの歩行者関連事故を抑える。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	現状特になし。
66	待ち受け型安全教育	芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(1)交通弱者対策の充実	①地域における見守りを通じた生活に密着した交通安全活動の推進	・高齢者の交通安全指導 ・独居高齢者宅を訪問し、出前型交通安全教室する。	ソフト	交通安全の規則を再確認することで、自発的な交通安全を促す。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
		建設総務課 生涯学習課 芦屋警察署 芦屋交通安全協会	(4)交通安全思想の普及徹底	②高齢者に対する交通安全教育の推進	・高齢者交通安全教室の実施 ・出前講座の実施	ソフト	交通安全の規則を再確認することで、自発的な交通安全を促す。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。	可	コロナ禍が継続中であるため、開催制約等をどう潜り抜けるかが課題。
67	JR芦屋駅南自転車駐車場7及び8の閉鎖	建設総務課	(2)自転車対策の推進	⑤自転車駐車場の改修及び整備	・長期修繕計画(H27～H36)を策定し、順次改修	ハード	JR芦屋駅南統合駐輪場(仮称)の設置により、駐輪場の利便性向上を図る。 →駐輪場利用者の動線を現行の生活道路経由から歩道橋経由へ変更が促され、路上駐輪の削減・利用者の駅～駐輪場間の徒歩移動時の事故減少につながる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	-	・ 施策対象であるJR芦屋駅南統合駐輪場(仮称)が存在しないため、評価せず。
68	JR芦屋駅北自転車駐車場の改良改修工事 (自転車ラック・監視カメラ)	建設総務課	(2)自転車対策の推進	⑤自転車駐車場の改修及び整備	・長期修繕計画(H27～H36)を策定し、順次改修	ハード	駐輪場の環境を利用しやすいよう改善し、利用促進を図る →路上の迷惑駐輪or違法駐輪の減少により、道路空間の通行安全性が向上するため、駐輪場周辺の交通事故抑止につなげる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	可	JR芦屋駅北駐輪場の周囲200m以内の自転車事故件数を追跡した結果、該当地域の事故件数は年次別で波がある点が判明。これを踏まえ、引き続きの追跡が必要。
69	阪神芦屋西自転車駐車場の補修工事	建設総務課	(2)自転車対策の推進	⑤自転車駐車場の改修及び整備	・長期修繕計画(H27～H36)を策定し、順次改修	ハード	駐輪場の環境を利用しやすいよう改善し、利用促進を図る →路上の迷惑駐輪or違法駐輪の減少により、道路空間の通行安全性が向上するため、駐輪場周辺の交通事故抑止につなげる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	-	実施時期がR2であるため、今後の動向で判定。
70	阪神打出駅前自転車駐車場の自転車ラック改修	建設総務課	(2)自転車対策の推進	⑤自転車駐車場の改修及び整備	・長期修繕計画(H27～H36)を策定し、順次改修	ハード	駐輪場の環境を利用しやすいよう改善し、利用促進を図る →路上の迷惑駐輪or違法駐輪の減少により、道路空間の通行安全性が向上するため、駐輪場周辺の交通事故抑止につなげる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	可	特になし。 阪神打出駅駐輪場の120m以内の自転車事故件数を追跡した結果、0～1件/年での推移を確認。
71	阪神打出駅南自転車駐車場の開設 (定数56台、自転車定期専用)	建設総務課	(2)自転車対策の推進	⑤自転車駐車場の改修及び整備	・長期修繕計画(H27～H36)を策定し、順次改修	ハード	駐輪場の環境を利用しやすいよう改善し、利用促進を図る →路上の迷惑駐輪or違法駐輪の減少により、道路空間の通行安全性が向上するため、駐輪場周辺の交通事故抑止につなげる。	交通事故で検証できる施策	オープンデータカタログ及びGIS	GISにより事故発生傾向を追跡する。	良	特になし。 (阪神打出駅南駐輪場の100m以内の自転車事故件数を追跡した結果、開設年(R1)以降の事故減少を確認)
72	暴走行為防止のための環境整備	芦屋警察署	(5)道路交通秩序の維持	③暴走族対策の強化	・暴走行為防止のための環境整備 ・暴走族等に対する指導取締りの強化	ソフト	制御を失った車両の暴走を防ぎ、制御された車両や歩行者が通行できる状況を整える。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	暴走族の人員等の推移を踏まえ、定性的に評価する。	-	暴走族の人員は全国的に減少傾向にある点を踏まえ、今後は暴走族に限定するのではなく、あおり運転等の危険運転行為防止に目を向けてはどうか。
73	暴走族等に対する指導取締りの強化	芦屋警察署	(5)道路交通秩序の維持	③暴走族対策の強化	・暴走行為防止のための環境整備 ・暴走族等に対する指導取締りの強化	ソフト	制御を失った車両の暴走を防ぎ、制御された車両や歩行者が通行できる状況を整える。	交通事故で検証困難な施策	定量データなし	暴走族の人員等の推移を踏まえ、定性的に評価する。	-	暴走族の人員は全国的に減少傾向にある点を踏まえ、今後は施策の見直しで課題。